

# 別府恋歌

その38

第五章 ● スケッチ / 点景

▼ 100年の憩い

▼ 静かに、さりげなく

▼ 川の上の通学路



110

100年の憩い

二〇〇八年九月十一日

泉都は恵まれている。ここでマイナスイオンを浴びると、いつもそう感じる。市中心部に位置する大公園。12万都市のオアシスでもある

この土地の「主(あるじ)」と  
 言いだろう。

別府公園の面積は二七・三ヘクタール。あの九州石油ドームがすっぽり五つ収まる広さだ。

そこに約六百五十本の赤松、黒松が根を張っている。いずれも樹齢は百年前後。誰よりも、泉都のことを知っている。

二年前、「日本歴史公園百選」に選ばれた。

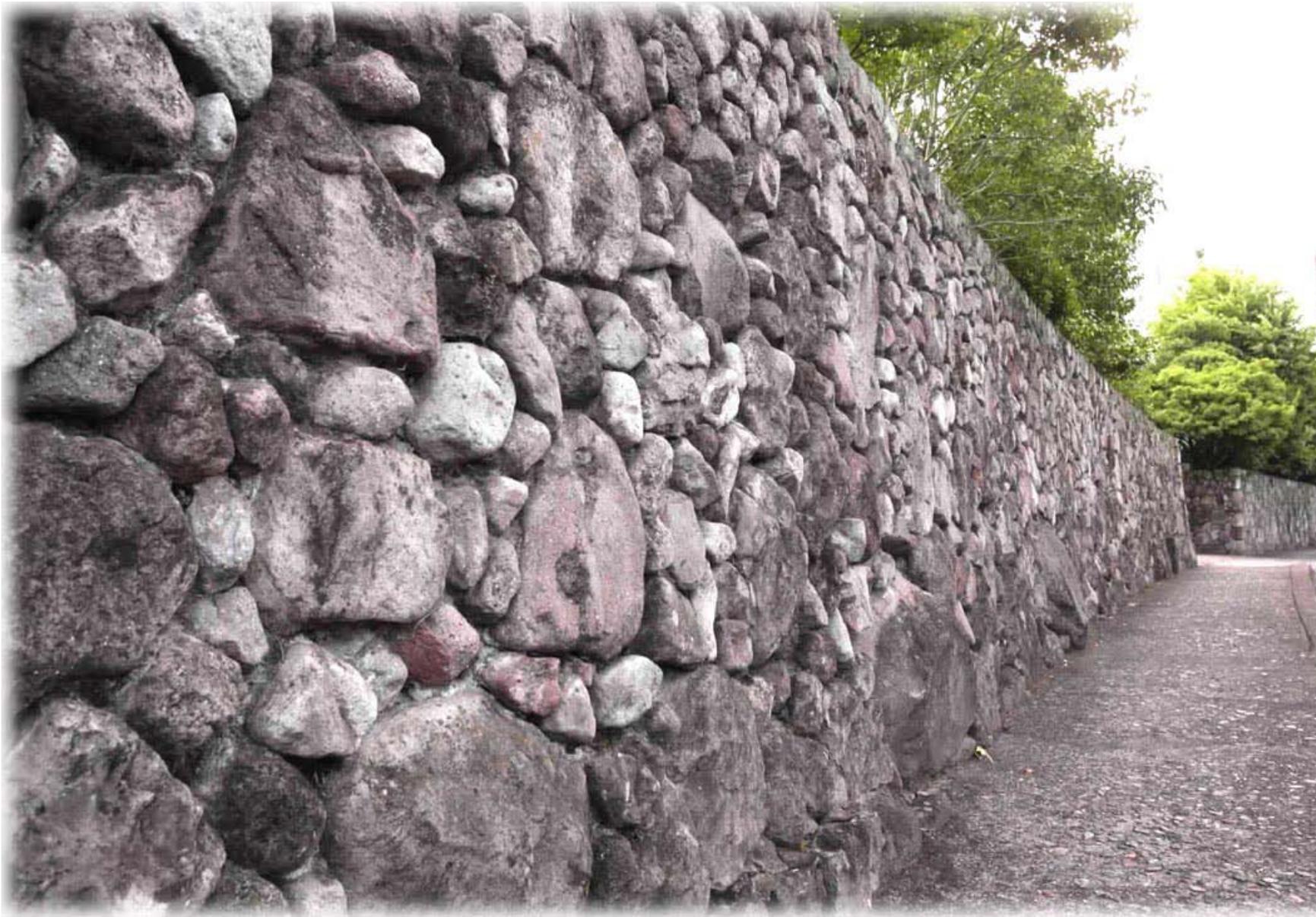
芝生に弁当を広げる親子。ウオーキングで汗を流す夫婦。手をつなぎ、肩を並べて歩く学生カップル…。

そんな光景を、いつも、老松たちは見守っている。

四季折々に花が咲き、野鳥が羽ばたき、昆虫が集う。

秋は駆け足でやって来た。

夏が名残惜しいのか。空がポツリ、ポツリと泣きだした。



111

静かに、  
さりげなく

二〇〇八年九月十二日

やや赤みを帯びた灰色。道を行けば、あちらこちらで別府石の外壁を見掛ける。落ち着いた雰囲気。独特の奥ゆかしさ。湯の街情緒には欠かせない

掘れば出てくる。やっかいな石  
でもある。

数百万年前から地殻変動を繰り返し、活発な火山活動で扇状の街・別府は生まれた。

地表に眠る安山岩―それが泉都特有の「別府石」だ。

掘れば出てくる。やっかいな石を、先人たちは利用した。

別荘、保養所、民家、田畑。

慎重に組み重ね、一個一個、丁寧に積んでゆく。いわゆる地産地消の境界―。

この伝統的な石垣は、この街ならではの「知恵」だった。

掘れば出てくる。やっかいな石で築いた外壁が今、「景観」的に見直されつつある。

扇状地に形成された温泉都市の、個性的な街並みをさりげなく、控えめに助演する。

守るべき「名脇役」である。



112  
川の上の通学路

二〇〇八年九月十三日

山から海へ、湯の街を東西に貫く春木川。「おはようございます」。元気にあいさつしながら、子どもたちが橋の上を通学していく

水田が幾重にも連なる棚田。その美景を模して、浴場を階段状に配した温泉施設を杉乃井ホテルでは棚湯と称す。

となれば、ここはさしずめ「棚川」とでも例えるべきか。

● 春木川は延長約六・二キロ。

扇山と鍋山の間からわき出た水は、坂の街を下る途中、源泉掛け流しの温泉を受け入れながら別府湾に注ぎ込む。

● 年間の平均水温、二一度。水質はともかく、温かい。

● 午前七時半すぎ。

棚状の川に架かる「馬場橋」を地元っ子たちが渡り始める。橋の先には朝日小学校―。

ランドセルの列が消えると、始業のチャイムが鳴った。  
N

(文・首藤康、

写真・杉山和也 // 別府支社)

### ■ オオイトデジタルブックとは

オオイトデジタルブックは、大分合同新聞社と学校法人別府大学が、大分の文化振興の一助となることを願って立ち上げたインターネット活用プロジェクト「NAN-NAN (なんなん)」の一環です。

NAN-NAN では、大分の文化と歴史を伝承していくうえで重要な、さまざまな文書や資料をデジタル化して公開します。そして、読者からの指摘・

追加情報を受けながら逐次、改訂して充実発展を図っていきたいと願っています。情報があれば、ぜひ NAN-NAN 事務局にお寄せください。

NAN-NAN では、この「別府恋歌」以外にもデジタルブック等をホームページで公開しています。インターネットに接続のうえ下のボタンをクリックすると、ホームページが立ち上がります。まずは、クリック!!!

大分合同新聞社



別府大学

### デジタル版「別府恋歌」 その38

編集 大分合同新聞社  
初出掲載媒体 大分合同新聞 (2007年10月22日～2009年3月14日)

《デジタル版》  
2010年11月12日初版発行

編集 大分合同新聞社  
制作 別府大学メディア教育・研究センター 地域連携部 / 川村研究室  
発行 NAN-NAN 事務局  
(〒870-8605 大分市府内町3-9-15 大分合同新聞社 企画調査部内)

### ● デジタル版「別府恋歌」について

「別府恋歌」は、大分合同新聞社が2007年10月から翌2009年3月まで、同紙夕刊に掲載した連載記事。今回、デジタルブックとして再構成し、公開する。登場人物の年齢をはじめ文中の記述内容は、新聞連載時のもの。

2010年2月26日

NAN-NAN 事務局